

First 100 Days



副会長 志賀 剛一 (41期)

主な担当業務：総会、常議員会、資格審査会、懲戒、綱紀、総務、人事、入退会、司法協議会、不服審査、国際、職員労務関係

矢吹丸出航

4月1日、緊急事態宣言が解除されていた束の間の時期に矢吹丸は出航しました。

今年度執行部は会長が39期、副会長は40期前半2名、後半2名、50期台2名、監事は50期台2名という構成で、期のバランスがうまくとれています。また、男女比は監事を含めると男性6名、女性3名となり、女性の比率はいわゆるクリティカル・マスと言われる30%を超えています。ご存じのとりの個性豊かなメンバーであり、理事者会では侃侃諤諤、しばしば激しい議論になりますが、ふだんの理事者室は大きな笑い声が絶えず、和気藹々として大変居心地の良い環境です。その後、3度目の緊急事態宣言が発出となり、この原稿を書いている5月中旬時点において、新執行部はまだ全員が揃った会食を開催できていないのがとても残念です。

First 100 Days

我々は選挙で当選した後、直ちにZoomミーティングを開始し、理事者に就任する前から新年度に向けた目標や課題について何度も議論してきました。冒頭のミーティングで矢吹さん（矢吹執行部ではお互いを「さん付け」で呼ぶことになっています）は我々に「最初の100日間、とにかく必死で頑張ろう」と発破をかけました。アメリカの第32代大統領であるフランクリン・ルーズベルトは就任後100日で行くニューディール政策にかかる重要法案を次々に成立させたと言われ、その後、アメリカでは新しい大統領が誕生してからの100日間を「First 100 Days」として注目する慣習があるそうです。

電子決裁

最初に取り組んだのは電子決裁です。今年度執行部

では正式就任前から事務局と打ち合わせて準備を進め、テレワーク環境の促進、ペーパーレスによる経費節減や役員等々の負担軽減を目的として4月1日から電子決裁手続きを導入しました。現在、電子決裁に馴染まない案件を除き、すでに多くの稟議書がガルーンの画面上で決裁されています。我々理事者は各自のノートPCにアプリを入れ、事務所や自宅でも理事者室のPCにアクセスして決裁ができるようになっており、最低でも週1回のテレワークを目指しています。

東弁ONLINEカフェ

会員の皆様の声を聴くために、Zoomを利用した東弁ONLINEカフェも4月から実施しています。およそ5期ごとに期を区切り、各回10名程度にご参加いただきました。定員をオーバーする回もあり、皆様から貴重なご意見をいただきました。可能な限り会務に反映させていきたいと思えます。

「ハネムーン期間」を経過して

それ以外にも就任直後から65期以降の会員の会費減額の恒久化、多摩支部会員の通信システム利用による常議員会出席を可能にする改正（いずれも8月31日の臨時総会に付議予定）などに取り組んで参りました。もちろん、財政改革をはじめ、まだまだ問題は山積しています。原稿を書いているのは5月中旬ですが、皆様をご覧になる頃にはFirst 100 Daysは経過しています。アメリカでは新政権の最初の100日について、「ハネムーン期間」として国民やマスメディアは過度な批判や性急な評価をしないと紳士協定がありますが、最初の100日を経過した後はFirst 100 Daysが成功であったかどうかを厳しく問うのだそうです。会員や職員の皆様のご意見をいただければ幸いです。